

# 教育あきた 3月号

2026 No.762



## 主な内容

特集	第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文2026）	…………… P 2
事業紹介	ICTを活用した授業力向上事業	…………… P 4
TOPICS	いのちの教育あったかエリア事業	
	キャリア教育実践研究協議会	…………… P 5
TOPICS	第八次秋田県高等学校総合整備計画	…………… P 6
事業紹介	わか杉っ子！育ちと学び支援事業	…………… P 8
TOPICS	教職員の働き方改革推進計画	…………… P 9
事業紹介	休館日を利用した図書館見学	…………… P10
TOPICS	第40回秋田県教育研究発表会	…………… P11
TOPICS	みんなで学ぶ・語る・創る「特別支援教育セミナー」	…………… P12
S P O T	各企画展のご紹介・お知らせ	…………… P13



第50回全国高等学校総合文化祭

# あきた総文2026

令和8（2026）年7月26日から8月1日までの7日間、秋田県で「第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文2026）」が開催されます。全国の高校生が日頃の芸術文化活動の成果を全国規模で発表する、まさに「文化部のインターハイ」です。

第50回という節目の大会であり、秋田県での開催は1981年の第5回大会以来、実に45年ぶりとなります。全国から約2万人の高校生、そして延べ約10万人の観覧者を迎える国内最大級の文化の祭典に向けて、着々と準備を進めています。



大会マスコットキャラクター  
「あきたぼ」

## プレ大会の応援ありがとうございました！

令和7年10月11日には「プレ大会開会行事」が秋田市で開催されました。あきた芸術劇場ミルハスで行われた総合開会式には、県内21校から129名が出演しました。第一部では厳かな式典、第二部では次年度開催県の石川県の生徒実行委員との心温まる交流、そして第三部では秋田の四季や文化を表現した圧巻のステージが披露されました。

開会式後、会場を広小路へと移し、パレードが行われました。オープニングアクトの秋田工業高等学校竿燈会による勇壮な演技に続き、県内の吹奏楽部やバトントワリング部、さらには中学校や一般団体を含む計17団体が堂々の行進を行いました。沿道を埋め尽くした約450名からは絶え間ない拍手が送られ、観客の皆さんと共に創り上げる大会の素晴らしさを実感する一日となりました。

また、8月から2月にかけて22の部門プレ大会が随時開催され、県内各地域で高校生が日頃の成果を披露しました。出演者はもちろん、運営の一翼を担った高校生の姿は、本大会の成功を確信させるものでした。



プレ大会総合開会式の様子



プレ大会パレードの様子

## 芸術で心を通わせる国際交流



国際交流事業(能代松陽高等学校にて)

国際交流も重要なテーマです。令和7年7月には、大韓民国の「高陽（コヤン）芸術高等学校」から生徒14名を招へいしました。能代松陽高等学校での交流会や歓迎レセプションなどを通じて友情を育みました。国際交流コンサートでは、音楽や舞踊という共通言語を通じて会場全体が一つになる感動的な瞬間が生まれました。令和8年度の本大会には、オーストラリア連邦、タイ王国、そして大韓民国の計3か国の高校生を秋田へ迎える予定です。

# 生徒実行委員会について

大会運営の中心となっているのは、公募によって集まった県内各地の高校生で構成される生徒実行委員会です。県立、市立、私立、そして特別支援学校の生徒が学校の垣根を越え、一つの目標に向かって団結しています。委員会は6つの部会に分かれ、準備を進めています。

## ●総務部会

観覧者のおもてなしや弁当の開発など、大会の屋台骨を支えます。

## ●パレード部会

パレードの企画運営、アーチのデザインや会場装飾を担当します。

## ●総合開会式部会

演出の企画やナレーションの作成、パフォーマンスを統括します。

## ●国際交流部会

海外招へい校のサポート、4か国交流会の企画や運営を行います。

## ●広報デザイン部会

ポスターやグッズ等のデザイン監修、SNSでの発信を担います。

## ●記録イベント部会

大会の公式記録の撮影及び集約、PRイベントの運営を行います。

あきた総文2026の最新情報や、生徒実行委員会の活動は、こちらをチェック。



【大会公式Instagram】

開会行事・開催部門		開催主会場	所在地	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1
				日	月	火	水	木	金	土
開会行事	総開会式	あきた芸術劇場ミルハス	秋田市	🐾						
	パレード	広小路	秋田市	🐾						
規定部門	1 演劇	ほくしか鹿鳴ホール	大館市					🐾	🐾	🐾
	2 合唱	大仙市大曲市民会館	大仙市							🐾
	3 吹奏楽	あきた芸術劇場ミルハス	秋田市						🐾	🐾
	4 器楽・管弦楽	あきた芸術劇場ミルハス	秋田市			🐾	🐾			
	5 日本音楽	由利本荘市文化交流館カダール	由利本荘市					🐾	🐾	
	6 吟詠剣詩舞	湯沢文化会館	湯沢市							🐾
	7 郷土芸能	湯沢文化会館	湯沢市			🐾	🐾	🐾		
	8 マーチングバンド・バントワリング	県立武道館	秋田市			🐾				
	9 美術・工芸	県立近代美術館、横手市立体育館	横手市		🐾	🐾	🐾	🐾	🐾	
	10 書道	CNA アリーナ★あきた	秋田市	🐾	🐾	🐾	🐾	🐾		
	11 写真	県立美術館、にぎわい交流館 AU、アトリオン	秋田市	🐾	🐾	🐾	🐾	🐾		
	12 放送	大仙市大曲市民会館	大仙市				🐾	🐾		
	13 囲碁	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ	由利本荘市			🐾	🐾			
	14 将棋	由利本荘総合防災公園ナイスアリーナ	由利本荘市						🐾	🐾
	15 弁論	能代市文化会館	能代市				🐾	🐾	🐾	
	16 小倉百人一首かるた	タクミアリーナ	大館市			🐾	🐾	🐾		
	17 新聞	潟上市市民センターかたりあん、潟上市市民センター天王館	潟上市			🐾	🐾	🐾		
	18 文芸	アトリオン	秋田市			🐾	🐾	🐾	🐾	🐾
	19 自然科学	県生涯学習センター、県児童会館、秋田県 JA ビル、さきがけホール	秋田市				🐾	🐾	🐾	
協賛部門	20 茶華道	秋田市文化創造館	秋田市			🐾	🐾			
	21 情報	秋田市文化創造館	秋田市			🐾	🐾			
	22 特別支援学校	秋田市文化創造館	秋田市						🐾	🐾

秋田の高校生にとっては、全国レベルの表現に触れ、大会をやり遂げることで、大きな自信と成長を得るチャンスとなります。開催主会場の市のほかにも、撮影会や取材活動を通じて高校生が県内各地に足を運びます。あきた総文2026に来県する高校生、そして大会準備を進めている県内の高校生への応援もよろしくお願ひします。

【お問合せ】 全国高等学校総合文化祭推進室 018(860)1433 kousoubun2026@pref.akita.lg.jp

# ICTを活用した授業力向上事業

県教育委員会では、より質の高い「秋田の探究型授業」の継承・発展を目指し、県内3管内のモデル校において、ICTの活用と授業力向上を両輪とした授業改善を推進してきました。

本事業で提案している「授業力のキーワード」に基づいて、各モデル校における取組を紹介します。ICTの活用については、3校とも「授業改善に生かす」という位置付けで、日々の教育活動を展開しています。

## 授業力のキーワード

- |          |          |
|----------|----------|
| ①授業を楽しむ  | ⑥見取る力    |
| ②必要感     | ⑦児童生徒が主役 |
| ③ねらいの明確化 | ⑧コーディネート |
| ④学習習慣    | ⑨言葉掛け    |
| ⑤ICTの活用  | ⑩振り返り    |

北管内

八峰町立八峰中学校

### ②必要感

児童生徒が必要感をもって「解決したい」と思えるように、導入の手立てを工夫している。

八峰中学校では、生徒が自ら問題発見できるように、教材の提示や発問の内容を吟味し、単元や授業の導入において「必要感」を高めることを大切にしています。

素朴な疑問を学習の必要性や学ぶ価値の気付きにつながったり、既習の内容から本時の課題を引き出したりして、生徒の「解決したい」「考えてみたい」という意欲を高めていました。



中央管内

由利本荘市立鳥海小学校

### ⑥見取る力

児童生徒や学級の状況を、表情やつぶやき、ノートやタブレット等への記述内容から見取っている。

鳥海小学校では、分かっている児童が中心に進む授業ではなく、困っている児童の考えも生かし全員で解決を図っていく授業を行うため、「見取る力」を磨くことを大切にしています。

電子黒板に色分けした考えを示したり、自分の考えの度合いをハートメーターで示したりするなど、ICTの機能を一人一人の状況を的確に捉えることに生かしていました。



南管内

美郷町立仙南小学校

### ⑦児童生徒が主役

児童生徒が自分で解決方法を見いだしたり、助け合ったりしながら学習を進めることができるように、教師の指示や発話の量を調整している。

仙南小学校では、児童が自ら解決方法を見いだす「児童が主役」の学びを大切にしています。

既習の内容や、学習を通して働かせた見方・考え方等を「学びの宝箱」として教室掲示したり1人1台端末に蓄積したりすることで、解決の方法や表現方法を児童が自ら取捨選択して学習を進められる工夫を取り入れていました。



モデル校の取組は、「令和8年度学校改善支援プラン」としてまとめ、県内の学校に展開します。授業改善の工夫を共有し、子どもたちの目が輝く学びをこれからも推進してまいります。

# いのちの教育あったかエリア事業

推進地域（推進校）  
の実践紹介

本県の道德教育の重点である「生命尊重・思いやりの心」を育てる教育を「いのちの教育」として本事業に位置付け、推進地域において、学校と家庭・地域が連携しながら一体となっていちの大切さについての認識を高めるモデルづくりを行っています。

**推進地域（推進校）：北秋田市（合川小学校、合川中学校）、  
県立秋田北鷹高等学校**

各校において、道德科の授業改善、家庭や地域との連携、校種間のつながりを生かした体験的な活動等を通して、いのちの大切さへの認識を深めるための道德教育の実践に取り組みました。

○活動：合川まと火集会、「『あきらめない人生～想像は無限大だ～』講演会」講師：GABEZ（小・中合同）

「いのちの大切さ」読み聞かせ会（小学校）

「いのちの大切さ」に関する講演会（中学校）

合川小、合川中への花育・鉢の贈与（高等学校）など

○参加者：小学生、中学生、高校生、教職員、地域住民など

○内容：伝統行事への参加や、地域の団体や学校等との協働作業などを通して、地域の人々と交流を深め、地域に貢献する体験的な活動を行いました。各校で行われた講演では、自分や周りの人々のいのちの大切さについて考えました。学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の取組によって、多様な考えや価値観に触れることで、他者を尊重することの大切さを学び、いのちや思いやりについての考えを深めることができました。



友達の考えを受け止め、自分の思いを伝える道德の授業



地域の方々と協働で行う  
花壇の花植作業



合川小学校における鉢の贈与

## 地域に根ざしたキャリア教育の一層の充実を目指して

令和7年11月21日（金）に、「令和7年度キャリア教育実践研究協議会」を県総合教育センターを会場に開催しました。県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員107名が参加し、講演、各校種の実践発表、グループ別協議などを通じて、キャリア教育の充実に向けた取組を共有することができました。

### 有識者による講演

公益財団法人秋田県ふるさと定住機構 あきた就職活動支援センター長 津川 光也 氏から、若者を取り巻く雇用情勢等に関する最新のデータを基に具体的なお話を伺い、これまでのキャリア教育の成果と課題について参加者が考えを深めることができました。



### 実践発表

湯沢市立稲川中学校、県立鹿角高等学校、県立横手支援学校の各先生方から、地域や企業等と連携した特色ある実践を紹介していただきました。各校種の具体的な取組事例を共有する貴重な機会となりました。



### グループ別協議

校種混合のグループで、「児童生徒の主体的なキャリア形成につながる体験活動の在り方」という視点で協議を行いました。各校種の体験活動における課題を共有し、解決に向けた方策について情報交換を行いました。





秋田が目指す高校教育！ 未来を切り拓くチカラを育む！

## 第八次秋田県高等学校総合整備計画の概要

令和8年度～令和17年度

県教育委員会では、将来、生徒が自立した社会人として郷土と関わり、目標に向かって明るくたくましく生き、生涯学び続ける意欲と社会を支えていく気概をもって、活躍していくことを願っています。そのため、次の姿の実現を目指します。

### 目指す姿のキーワード

- 豊かな心
- 高い志
- 公共の精神
- 他者との協働
- 自らの個性・能力の伸長
- 主体的に社会の形成に参画

- 国際的視野
- 多様な価値観の尊重
- 自らの考えや必要な情報を的確に表現
- グローバル社会で活躍

- ふるさと秋田への愛着と誇り
- 地域社会の持続的な発展に貢献
- 地域の課題解決に積極的に取り組む

豊かな人生を切り拓き、

持続可能な社会の創り手となる人材を育てます

#### 社会の形成に主体的に参画する力を育みます

- ・生徒一人一人の資質・能力の育成
- ・多様な可能性を引き出す取組
- ・よりよい人生を主体的に切り拓くためのキャリア教育
- ・主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善
- ・多様な生徒に応じた教育

#### グローバルな視野で物事を捉え、多様な価値観を尊重して行動できる力を育みます

- ・国際教育と国際交流活動
- ・発信力の向上を目指した外国語教育

#### 地域への愛着と誇りを育みます

- ・地域との持続的な連携・協働
- ・地域について主体的に考え行動できる力を育む教育

# 時代の変化に対応した特色ある学校づくりを進めます

生徒がそれぞれの夢の実現に向けて、学習やスポーツ、文化活動等に打ち込み、自分の可能性を最大限に伸ばすことができるよう、教育の質を高めていきます。生徒数の大幅な減少が見込まれる中でも、教育の機会を保障し、多様な学びのニーズに対応できる学校づくりを推進するため、次の3つの基本方針を掲げています。

生徒の多様な能力を伸ばすために学科等の改善と充実に取り組みます

全日制課程における学校規模の適正化と望ましい配置の実現に取り組みます

定時制課程・通信制課程の改善と充実に取り組みます

## ■今後予想される主な動き

本計画期間中に地域と協議を行い、具体的な構想案を示します。



### 【能代山本地区】

本計画中には、能代市3校（能代、能代松陽、能代科学技術）を2校にする必要が生じると予想されます。

### 【大館地区】

令和20年度頃には、大館市3校（大館鳳鳴、大館桂桜、大館国際情報学院）を2校にする必要が生じると予想されます。

### 【男鹿潟上南秋地区】

男鹿市2校（男鹿海洋、男鹿工業）を統合し、令和11年4月に「男鹿地区統合校（仮称）」を開校します。

### 【大仙仙北地区】

令和20年度頃には、大仙市3校（大曲農業、大曲、大曲工業）を2校にする必要が生じると予想されます。

### 【由利本荘にかほ地区】

令和20年度頃には、由利本荘市4校（本荘、由利、由利工業、西目）を2校または3校にする必要が生じると予想されます。

### 【横手地区】

横手市3校（平成、雄物川、増田）を統合し、令和13年4月に「横手地区統合校（仮称）」を開校します。  
令和20年度頃には、横手市3校（横手、横手城南、横手清陵学院）を2校にする必要が生じると予想されます。

※定時制課程や県立中学校の今後の在り方についても検討します。



高総文祭公式マスコット  
あきたぼ

県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」に計画を掲載しています。  
(<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/92634>)



あきた総文 2026 で待ってるぽ！

高校教育課 高校改革推進チーム (TEL 018-860-5163)

# わか杉っ子!育ちと学び支援事業

県教育委員会では、子どもの居場所がどこであっても生涯にわたる学びや生活の基盤が育まれるよう、乳幼児期及び幼保小接続期の教育・保育の質の向上を図るため、市町村における幼児教育推進体制の構築・充実に向けた取組と「幼保小の架け橋プログラム」実施への支援に取り組んでいます。

## リーフレット「もうすぐ1年生 ～育ちと学びを未来につなぐ～」

乳幼児期の育ちと学びの重要性について理解啓発を図るため、5歳児がいるご家庭、就学に関わる皆さまへ配付しています。



乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。「遊び」の中で子どもが自発的・主体的に人やものに関わりながら、豊かで多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていきます。遊びを通して育まれた資質・能力は、小学校以降の生活や学習における基盤となっています。小学校教育では、「学びの芽」をさらに伸ばしていくことが重要です。

一部の紹介になります。本リーフレットは「美の国あきたネット」に掲載しております。ぜひご覧ください。



## 「幼保小の架け橋プログラム」

架け橋期の教育・保育の充実を図るため、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、子ども一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

### 育ちと学び推進協議会

25市町村の教育委員会及び就学前教育・保育施設担当部局の担当者を対象に、地域に適した幼児教育推進体制の在り方や架け橋プログラムの理解促進と取組実践についての協議会を実施しました。

グループ協議では、地域の宝である子どもたちの「育ちと学び」をつなぐための工夫や悩みなどについて情報交換を行いました。



【グループ協議】

～市町村におけるよりよい取組について～

# 教職員の働き方改革の推進

いま、学校では先生方の長時間勤務が大きな課題となっています。  
秋田県教育委員会では、先生方が心身共に健康な状態で、自らも学ぶ時間を確保しながら、専門性を最大限に発揮して生き活きと子どもたちに向き合うことができるよう、「働きやすさ」と「働きがい」を両立させた魅力ある職場環境の実現に向けて取り組めます。



## 主な取組

### コミュニティ・スクールの活用促進

保護者や地域住民等が一体となって学校づくりを行うコミュニティ・スクールを活用し、教員の多忙化解消に向けた取組への理解と協力体制を構築します。

### 専門人材の配置

スクールカウンセラーやスクールロイヤーなどの専門人材を配置し、子どもたちを支えるとともに、適切な業務分担により教員の業務を支援します。

### デジタル技術の活用促進

高校入試のWEB出願システムや、テスト等の解答を自動で採点するシステムの活用を促進し、業務の負担軽減を図ります。

### 部活動を支える体制づくり

先生方が適切な役割分担で効率良く指導ができるよう支援するとともに、先生以外の指導者の確保や養成を進めます。

### 柔軟な働き方の実践例の収集・共有

テレワークやフレックスタイムなど、先生方の柔軟な働き方の実践例を集め、学校に紹介していきます。

### 休憩時間や勤務間インターバルの確保

すべての先生方が心身をしっかりと休ませる時間を確保できるよう、学校に対し、時間割や役割分担の見直しを働きかけます。

Pickup

### 学校での業務改善ワークショップの実施

学校によって長時間勤務の要因は様々です。各学校の実態に合った実効性のある業務改善が進められるよう、先生方自身が課題と改善策を考えるワークショップを実施します。



秋田県立秋田南高校と中等部でのワークショップの様子

Pickup

### 文書事務削減チャレンジの実施

学校には毎日多くの文書が届いており、特に副校長先生や教頭先生は文書処理だけで多くの時間を費やしています。「文書事務削減チャレンジ」により、教職員の事務的業務の負担軽減を図ります。

#### <チャレンジの内容>

- \* 学校へ慣例的に送付していた文書を見直し、削減に努めます。
- \* 鑑文（書類の表紙につける挨拶や概要を記した案内文）の削減に努めます。
- \* デジタル技術を活用し、文書のやり取りの効率化を図ります。

秋田県立図書館

# 休館日を活用した図書館見学

令和8年度

実施期間：令和8年6月～令和9年2月

読む



借りる



見る



休館日(水曜日)に気兼ねなく、ゆっくりご利用できます

対象

特別支援学校の児童・生徒

実施期間

令和8年6月～令和9年2月

見学内容(選択制)

所要時間：1時間～1時間半

読書体験

閲覧室他の見学

貸出体験

- 受入可能人数 10人程度（ご相談ください）
- 申込方法 事前確認・調整のため、「休館日を活用した図書館見学確認用紙」をインターンシップ担当までFAXまたはメールでお送りください。  
正式なお申し込みは「秋田県立図書館利用申込書」をご提出いただきます。

問い合わせ

秋田県立図書館 企画・広報チーム  
TEL：018-866-8400 FAX：018-866-6200  
E-mail：apl@mail2.pref.akita.lg.jp

郷土あきたの教育への提案

# 第40回 秋田県教育研究発表会

第40回秋田県教育研究発表会が、令和8年2月6日（金）に秋田県総合教育センターで開催されました。これは本県教育の振興を目的として、県教育委員会が毎年開催しているもので、一部オンライン配信を取り入れた集合型で実施し、県内外から200名を超える教育関係者に参加いただきました。大会では「郷土あきたの教育への提案」の下、熱意あふれる研究発表と講演が行われました。

## センター研究発表 共通テーマ「新たな時代に対応した秋田の教育」

秋田県総合教育センターでは、本県が目指す学校教育の実現に向けて様々な角度から研究に取り組んでいます。今年度は、教員研修、教科指導、生徒指導について、3年計画の研究2年次の発表を行いました。

### センター研究1【教員研修】

「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した研修デザインの探究

「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した研修デザインを探究してきました。教師自身の「観（子ども観、学習観等）」を問い直すとともに、自らの実践を振り返り、省察しながら主体的に学び続ける姿の実現に向けた研修講座の手立てや参加者の学びの姿について発表しました。

### センター研究2【教科指導】

一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善

「一人一人の子どもを主語にした学び」の実現に向けて授業改善を図る教師を支援するための研究です。研究2年次である今年度は、1年次で明らかになった教師の悩みや実践上の課題を解決するために行った支援の具体と支援による教師の意識や授業の変容について発表しました。

### センター研究3【生徒指導】

ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために

教師と児童生徒とのよりよい関係づくりについての研究です。今年度は、若手教師の悩みと先輩教師の経験に基づくアドバイスをまとめた「先輩教師の技とコツブック（試案）」の活用を若手教師に促しました。活用状況と内容の一層の充実に向けた取組について発表しました。

## 研究発表 提案型の研究発表

各学校等から計22件の研究発表が行われました。国や県の委託による研究、大学院や長期社会体験研修における研究、秋田県総合教育センター研修員による研究等、多様な立場から先進的な研究成果が発表されました。



□頭発表の様子

### 参加者の声

- ・中身の濃い発表ばかりでした。
- ・学校経営や職員の力量形成に向けて、自校に生かせるヒントが数多くありました。

## 講演 演題 「不確実な未来を生き抜く子どもの教育とは」

講師：東京大学先端科学技術研究センターシニアサーチフェロー

中 邑 賢 龍 氏

不確実な未来に向かって、「一斉」「均質化」教育からの脱却と、ICTやAIをツールとする「矯正知能」を多様性の一つとして容認することの重要性が示されました。自己決定と自己責任を包摂した学びこそが不確実な時代を生き抜くレジリエンスを育むことを深く考える機会となりました。



講演の様子

### 参加者の声

- ・将来に必要な「学び」とは何かという示唆をいただきました。
- ・多様な学びを前提とした社会の構築が必要になっていることと、その中での公教育の果たす役割について考えさせられました。

# みんなで学ぶ・語る・創る「特別支援教育セミナー」 ～そうだ！秋田で先生になろう 特別支援学校編～

特別支援教育課では今年度、初の試みとして、秋田県内の高校生、保護者、高等学校教員を対象とした「特別支援教育セミナー」を秋田大学と共催で実施しました。ねらいは、「特別支援教育」や「様々な障害」、「多様性」に関する理解を深める機会を設け、将来教員を志す若き人材を育成・発掘することです。

当日は、在籍校から配付されたちらし（右図）や県のSNSを見て興味・関心を持った高校生、保護者の方が参加してくださいました。

特別支援教育の理解啓発と特別支援学校教員志願者の増加に向けて、次年度も実施予定です。より多くの関係者の方にご参加いただけるよう、参加しやすく魅力ある方法を検討しています。



図 配付ちらし

## 令和7年度の実施状況

### 令和7年9月20日（土） 10:00～12:00

●場所：秋田大学 ●参加者数：5名（高校生3、保護者2） ●大学担当教員：秋田大学教育文化学部 准教授 鈴木 徹 氏

### 令和7年10月26日（日） 13:30～15:30

●場所：大館市立中央公民館 ●参加者数：5名（高校生3、保護者2） ●大学担当教員：秋田大学教育文化学部 講師 能田 昂 氏

### 令和7年11月30日（日） 10:00～12:00

●場所：秋田県立近代美術館 ●参加者数：12名（高校生7、保護者5） ●大学担当教員：秋田大学教育文化学部 教授 藤井 慶博 氏

## 主な内容

### I 講話「特別支援教育って、何だろう？」

- 担当：秋田大学教育文化学部教員
- ・特別支援教育の概要や、世界的な潮流となっているインクルーシブ教育などについて説明

### II 講話「これからのあきたをきづくたからっこ～特別支援学校の様子やそこで働く教職員について～」

- 担当：秋田県教育庁特別支援教育課職員
- ・県内特別支援学校の授業や生活の様子を動画等で紹介



実施風景

### III 体験「障害の疑似体験～共生社会実現のために必要なことは～」

- ・障害による見え方、聞こえ方の違い等を体験

### IV 質問コーナー

- ・大学での学びについて、秋田県の特別支援育について、自分の将来についてなど、どのようなご質問にも、秋田大学教育文化学部教員や特別支援教育課職員が対応

## 参加者の感想（一部）

高校生：漠然と、「特別支援教育」というのは体や心に障害がある子どもたちを対象にしたものだと思っていたが、子どもだけではなく青少年や高齢者なども対象であったり、障害がある人の周囲にいる人達の振る舞いについて考えることもあったりと、自分が思っていたよりもとても広い範囲の学問だと分かった。

高校生：特別支援学校に訪問したことがあり、様子を知っているつもりだったが、活動の内容だけでなく目的まで知ることができたのがとても勉強になった。「活かせる力」について、目指す上で自分のどんなところが強みになるのか、どんなことを意識したら将来のためになるのかを考えることができた。教員を目指す上でとても力になる講話だった。

保護者：障害のある子どもたちのキラキラとした目の輝きが印象に残った。我が子が特別支援教育コースを選択した気持ちが分かった気がした。

保護者：体験することができ、子どもが将来特別支援教育の道へ進学や就職をする時の参考になったのではないかなと思う。

(文責 特別支援教育課管理チーム)



## あきた文学資料館

# 新収蔵資料展

あきた文学資料館では、平成18年の開館以来、秋田の文学に関する資料の収集・保存に取り組んでいます。今回は書簡や色紙などの直筆資料のほか、秋田市出身の俳人で医師でもあった石井露月が、長女と長男を亡くした際に刊行した追悼集『子鴉親鴉』と『桑弧』、仙北市ゆかりの芥川賞作家である高井有一が生前行った講演会の音源など、近年新たにコレクションに加わった品々をご紹介します。

**会 期** 令和8年3月18日～5月10日

**開館時間** 10：00～16：00

**休 館 日** 毎週月曜日および5月3日（日曜日）～5日（火曜日）は休館

**会 場** あきた文学資料館（秋田市）

**電 話** 018-884-7760

**観 覧 料** 無料

## 秋 田 県 立 近 代 美 術 館

企 画 展

### 「キンビ写真コレクション」(後期)

洋画家・小西正太郎が撮影した100年前のフランス・パリ。本県写真界の黎明期に活躍した千葉禎介撮影による昭和中頃の横手平鹿。その作品が数々のカメラ誌に掲載された大野源二郎撮影の農村・小学校風景。能代市出身の南利夫が残した、けわしい山奥で天然秋田杉を伐採する職人たちの姿。水中写真の第一人者・中村征夫がとらえた世界中の海をぜひご覧ください！



写真：大野源二郎《根子小学校（阿仁町）》  
1989年 当館蔵

会 期	開催中～令和8年4月5日（日）
開館時間	9：30～17：00（最終入館16：30） ※～3月19日までの平日は次のとおり 9：30～16：00（最終入館15：30）
会 場	秋田県立近代美術館 5階展示室（横手市）
観 覧 料	無料
主 催	秋田県立近代美術館
お問合せ	秋田県立近代美術館 Tel.0182-33-8855

## 秋 田 県 立 近 代 美 術 館

コレクション展 第3期

### 「華と棘（ハナとトゲ）～『美しい』、だけじゃない!?～」

当館所蔵作品のハッとするような意外な表現や、モチーフに込められた辛辣なメッセージ性などに焦点を当ててご紹介することで、作家の創作意図や造形の工夫に迫ります。美しさだけではない美術作品の魅力をも、この機会に是非お楽しみください。



写真：コレクション展 第3期チラシ

会 期	開催中～令和8年4月12日（日）
開館時間	9：30～17：00（最終入館16：30） ※～3月19日までの平日は次のとおり 9：30～16：00（最終入館15：30）
会 場	秋田県立近代美術館 6階展示室（横手市）
観 覧 料	無料
主 催	秋田県立近代美術館
お問合せ	秋田県立近代美術館 Tel.0182-33-8855

## 令和8年度秋田県立近代美術館特別展

# 「親愛なる友 フィンセント～動くゴッホ展」



力強いタッチと優れた色彩感覚で、人々の心に残る作品を描いたフィンセント・ファン・ゴッホ（1853-90）。本展は、その作品と生涯を大スケールで体感・鑑賞できる展覧会です。名画の数々が鮮やかに動き出す——ハリウッドの映像スタジオが息を吹き込む、新たな芸術空間をお楽しみください。

※一部コーナーを除き、撮影可能です。  
 ※全室共通で三脚・フラッシュの使用はご遠慮ください。  
 ※本展はデジタルファインアート展（純粋芸術を題材にデジタル技術を使用して作った作品を集めた展覧会）であり、ゴッホ作品の原画は展示に含まれておりません。  
 画像：特別展パンフレット

- 会期** 4月18日（土）～7月20日（月・祝） 9：30～17：00（最終入館16：30）
- 会場** 秋田県立近代美術館 5階展示室（横手市）
- 観覧料** 前売限定 ペアチケット2,500円  
 当日券（前売券）一般・大学生1,500円（1,300円）  
 ※ 高校生以下無料。ただし高校生は要学生証提示。小学生以下は要保護者同伴。
- 主催** 動くゴッホ展 秋田実行委員会（秋田県立近代美術館・ABS秋田放送）
- 企画制作** ネオスペース／ワンダースクワッド
- お問合せ** 秋田県立近代美術館 Tel. 0182-33-8855

\* 展覧会の詳細はHP、チラシ等をご確認ください。

## information お知らせ

県内の教育施設等で開催される  
 主なイベントなどを紹介します。

※詳しくは各施設にお問い合わせください。

### ☆生涯学習課☆

TEL 018-860-5184

### ビブリオバトル2025 in AKITA(秋田県大会) 録画配信中!

令和7年11月29日（土）に開催した「ビブリオバトル2025 in AKITA（秋田県大会）」録画配信や情報は様子を録画配信しています。県内中高生バトラーの熱い戦いを是非ご覧ください。

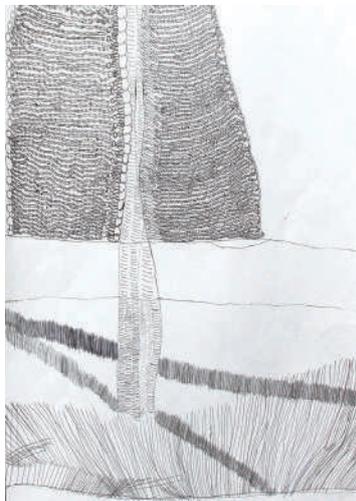
こちらから→



# 秋田県特別支援学校文化祭 作品紹介

## 第23回わくわく美術展

絵画作品部門 最優秀賞 (応募数658点)



「自然溢れる曇りの中の大きなゆりの木」  
大曲支援学校  
佐々木 大河

自由作品部門 最優秀賞 (応募数125点)



「ぼくの武器」  
ゆり支援学校  
今野 大智



「第六金魚人文明遺跡図表画」  
秋田きらり支援学校  
佐藤 漣



「ふしぎなまじない」  
大曲支援学校  
石川 駿、佐藤 寿将、佐藤 隼颯、  
柴田 つぐみ、杉澤 呂玖、山形 優太郎

## 令和7年度みんなの写真展

最優秀賞 (応募数461点)



「水面に光る蓮たちよ」  
秋田大学教育学部  
附属特別支援学校  
渡部 爽太郎



「先輩たちの活躍」  
稲川支援学校  
浅井 風雅

■「教育あきた」は、県の教育関連施設や市町村の公民館、図書館等に設置しています。  
また、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」からもご覧いただけます。

この印刷物は4,800部作成し、印刷経費は1部当たり25.3円です。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

令和8年3月13日「教育あきた」No.762  
発行・秋田県教育委員会  
編集・秋田県教育庁総務課  
〒010-8580 秋田市山王三丁目1-1  
TEL.018-860-5112 FAX.018-860-5851  
Eメール soumu-edu@pref.akita.lg.jp  
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/education>